

おわりに

地域活動実践センター 副センター長 三 和 優

『SOCIUS』について

本誌「SOCIUS」の命名は禿正宣学長によるものです。「SOCIUS」とは、ラテン語で「仲間」「友」を意味するそうです。この言葉から「societas」という「親交、友愛、絆」を意味する言葉ができ、社会を意味する society という英語が生まれたと言われています。また、SOCIUS という言葉は「分かち合っている・結びつけられた」という意味を持つ形容詞でもあります。当センターが地域と短大を結び合わせることによって、新しい仲間が増え、つながり合い、愛や絆が無意識的に感じられるような「社会づくり」を目指したいという願いが込められているということです。

地域活動実践センターは各学科それぞれに設置されていた研究センターを平成18年に「地域活動実践センター」に統合したものです。その設立目的は、仁愛女子短期大学の建学の精神である「仁愛兼濟」を実践するため、本学が保有する教育資源を地域社会に提供し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することです。

平成23年度の事業として、①地域社会に向けた各種公開講座・講習会、地域の教育活動を支援するための教職員の派遣、②森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業（もりた夢駅・夢市の実施、脇屋義助ゆかりの地探訪DVD制作、夢ギャラリー森田（森田駅）の運用、森田地区文化祭と本学大学祭の連携・協力など）、③教職員及び学生のボランティア活動等の支援、④教員免許状更新講習の開催、⑤機関誌の発行などに取り組みました。

これからさらに本センターが地域に貢献するためには、本学が有している教育資源をどのように有効利用するかについて、その方策を考えなければならないと思います。そのためにも今後とも、関係者の皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

最後に、本センター運営委員や編集事務を担当された中村澄子さんのご尽力により、「SOCIUS」第6号を発行することができ、心から感謝の意を表します。